会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	第3回大島を未来へつなぐ会
開催日時	令和8年7月14日（火）10時00分～14時40分
開催場所	国立療養所大島青松園大島会館
議題	１　大島青松園施設見学 ２　議事 (１) 大島青松園の医療体制・生活環境の現状について (２) 大島青松園将来構想・永続化の基本的な考え方（案）について (３) その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員（18名）	特別参与、委員： 北川特別参与、池内委員、岡野委員、筧委員、神谷委員、金委員、近藤委員、酒井委員、笹川委員、沢委員、髙橋委員、都谷委員、野村委員、平田委員、森委員 オブザーバー： 田村氏、永岡氏、高原氏、柳堀氏（厚生労働省医政局医療経営支援課）岩倉氏（同省健康・生活衛生局難病対策課）
傍聴者	5人（定員10人）
担当課及び連絡先	政策課　839-2135

会議の経過及び結果
１　大島青松園施設等見学 大島青松園学芸員の解説を聞きながら、徒歩で令和8年3月に歴史的建造物等として保存が決定した木工所、霊交会キリスト協会及び石仏・ミニ八十八カ所を巡った。その後、バスに乗車して大島庵治第二小学校等を見学し、さらに機能訓練棟、病棟、治療棟及び入所者の居室等も確認した。 **２　議事** **（１）大島青松園の医療体制・生活環境の現状について** 大島青松園職員より、配布資料に基づき、医療体制・生活環境の現状について説明を行った。

（委員）
医師、看護師、介護員・技能職の職員の充足率はどのような現状なのか。
（大島青松園）
医師については定員９名であるが、現在７名（うち歯科医が２名）であり２名の欠員となっている。看護師や介護員については概ね充足している。また、船員については非常勤２名を含む９名で運航しているところである。

（２）大島青松園将来構想・永続化の基本的な考え方（案）について
第１回、第２回会議での議論を踏まえ、これまでお示ししてきた３つの基本目標に沿った基本方針と、大島青松園永続化に向けての方向性について、配布資料「大島青松園将来構想・永続化の基本的な考え方（案）について」に沿って、事務局より説明を行った。
（委員）
将来構想・永続化には、大島のどのエリアを対象に整備していくのか、国の関わりについて具体的に示すことが必要であると考える。
（委員）
午前中の施設見学で充実した医療体制が整えられていることが理解でき、入所者の健康寿命の延伸につながるだろう。今後 10 年は、入所者の生活充実と将来構想の実現を併行して進めていく必要があるのではないかと考える。
（委員）
民有地を所有する方の一部とは交流があるが、皆さんそれぞれ大島への思いがある。民有地について入所者はどのような思いを持っているのか。
（委員）
民有地については悩ましい問題である。どのように対応していくか現時点では見当がつかない。
（委員）
瀬戸内国際芸術祭を通じて、アーティストは入所者の声を聴きながら作品を制作し、それが多くの人に響いている。芸術と大島は響き合う何かがあると感じている。
（委員）
大島で暮らす人は多様な宗教をお互いが尊重しているだけではなく、広い意味で捉えることのできる「祈りの島」を将来構想・永続化の中に入れるのが良いのではないかと考える。
（委員）
大島青松園将来構想・永続化の基本的な考え方（案）を受けて、アートの活用、納骨堂・歴史的建造物の保存と活用、社会交流会館展示の充実、将来構想・永続化が具体化された後に基本方針を実現するための会議体の設置等について提案をさせていただく。

	（委員） 　今日は各委員からこれからの大島についての提案や思いを発言していただき嬉しかった。 （委員） 　歴史的建造物である木工所は、改修して社会交流会館で展示できていないものを展示できれば嬉しく思う。 （委員） 　委員の皆さんからの発言を受けて、学芸員として園芸や農作業を入所者が先生役となり来島者が作業するといったことなどが出来れば良いなと感じた。 （委員） 　大島に関心を持つ人は多いので、大島の魅力を生かすことができるコンテンツを増やしていくことと、大島に思いを持つ人が自由に思いを発することができる場の設置が必要ではないかと考える。 **（３）その他** 　次回以降の本会の開催スケジュール及び議題について、事務局より説明を行った。 （閉会）	